

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：24506

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23760606

研究課題名(和文) モロッコにおけるアンリ・プロストの都市計画とアール・デコの建築に関する統合的研究

研究課題名(英文) Integrated Research of the Town Planning by Henri Prost and the Architecture of Art Deco Style in Morocco.

研究代表者

三田村 哲哉 (MITAMURA, Tetsuya)

兵庫県立大学・環境人間学部・准教授

研究者番号：70381457

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円、(間接経費) 1,020,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではフランスの建築家・都市計画家アンリ・プロスト(Henri PROST, 1874-1959)が、保護領モロッコ初代総督ユベール・リヨテ(Hubert LYAUTEY, 1854-1934)の命を受けて、同国内15都市で旧市街の保全と新市街の建設を両立したこと、同国の歴史的・文化的遺産を尊重して保存したこと、アルベール・ラプラド(Albert LAPRADE, 1883-1978)やジョゼフ・マラスト(Joseph MARRAST, 1881-1971)らのフランスの若手建築家を起用して、新市街にアール・デコなどの当時最新の建築を数多く建設したことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The 3 following points were made clear. 1) Henri Prost (1874-1959), French architect and town planner, given true vocation by Hubert Lyautey (1854-1934), the first French Resident-General in Morocco, maintained an old town and constructed a new town in the 15 cities. 2) Prost deeply respected and conserved all of historical and cultural heritages of Morocco. 3) Prost appointed French young architects such as Albert Laprade(1883-1978), and Joseph Marrast (1881-1971) etc, and they constructed many buildings of the lasted trend in architecture, Art Deco Style.

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学・建築史・意匠

キーワード：アンリ・プロスト アール・デコ モロッコ 都市計画 カサブランカ ラバト ユベール・リヨテ  
ラ・マムーニャ

### 1. 研究開始当初の背景

20世紀のフランス建築は、鉄筋コンクリート造建築の造形美を探求したオーギュスト・ペレ(1874-1954)や『工業都市』で新たな都市像を描いたトニー・ガルニエ(1869-1948)のように、近代主義への傾倒に始まる。一方、1925年パリ現代装飾美術・工芸美術国際博覧会(Exposition internationale des arts décoratifs et industriels modernes à Paris 1925 アール・デコ博)の企画者やフランスの建築家・都市計画家レオン＝アンリ・プロスト(Léon-Henri Prost, 1874-1959)のように、歴史主義を尊重した建築と都市計画により、多大な功績を残した者もいた。しかし先行研究の近代主義への偏りは未だ否めない。応募者はこうした観点から、近代主義全盛とされるフランスで歴史と伝統を尊重した建築・都市に関する研究を遂行している。

保護領モロッコ初代総督ユベール・リヨテ(1854-1934)の命を受けたプロストは、アルベル・ラブラド(1883-1978)らの若手建築家を率いて、1913年からモロッコの5大歴史的都市(カサブランカ、マラケシュ、メクネス、フェズ、ラバト)を含む15都市で旧市街のメディナを保全し、アール・デコの建築を中心とした近代建築によってヨーロッパ人のための新市街を建設した。

伝統的な造園の設計技術を有するフランスでは、20世紀初頭からプロストやガルニエのほか、ウジェーヌ・エナール(1849-1923)、ジャン・フォレストイエ(1861-1930)、レオン・ジョスリー(1875-1932)らによる都市に対する新たな提案や、第一次世界大戦による各被災都市の復興計画で、都市計画が次々に検討されたことにより、その技術が飛躍的に向上した。この時代のフランス建築は鉄筋コンクリート造に代表される技術革新と同様に、都市計画による多大な影響を受けている。プロストが手がけたモロッコにおける都市計画もそのひとつで、フランス近代建築史および第二次世界大戦後の現代都市計画に多大な影響を与えた。

プロストの史料は、パリにある Académie d'Architecture に保管されており、全面公開されていなかったが、2007年にその史料がソニア・ゴベールらによる詳細な資料目録とともに公開されて、最重要課題のひとつであるモロッコ5大都市に関する研究を本格的に始動させる好機をむかえた。

本研究は、こうした背景を鑑みて継続しているプロストに関する作家研究の一部であり、建築史、建築意匠、都市計画という3つの視点から20世紀前半のフランス建築の本質を捉え直すことを試みたものである。

### 2. 研究の目的

プロストはラブラドやジョゼフ・マラスト(1881-1971)らフランスの若手建築家を引き連れて、モロッコの都市計画を手がけると

ともに、数多くの近代建築を残した。プロストはこれら各都市の新市街に、総督府(ラバト、1921年)、アルジェリア銀行社屋(カサブランカ、1931年)、ホテル「ラ・マムーニャ」(マラケシュ、1939年)のほか、アール・デコの建築を中心に近代建築を次々に建設した。こうしたプロストの経歴と作品の概要は、建築史家ルイ・オートクール(1884-1973)らによる『アンリ・プロストの作品 L'Œuvre de Henri Prost』(1960年)で明らかとなり、その後次のような研究書や学術論文の一部で取り上げられることはあったものの、本国フランスですらモノグラフ一冊発行されずにいる。

国内の先行研究には、吉田綱市の「カサブランカのアール・デコ建築」、石井昭、山田幸正、深見奈緒子らの北アフリカ建築に関する研究、松原康介の『フェスの保全と近代化』がある。海外の先行研究にはカサブランカの近代建築全般を論じた本国フランスの建築史家 J-L・コーエンらによる研究、アメリカの人類学者 P・ラビノウ、建築史家 G・ライトによる研究、フランスの地理学者 V・ブルドゥレと J-P・フレによる著書や論文があるが、プロストに関する考察いずれも概説にとどまっていた。

本研究の目的は、先述の未公開史料を含む一次史料と政治資料に基づく文献調査および作品分析、各都市における実地調査に基づいて、プロストらによる都市計画、特に新市街の全容、建築作品と、建築設計と都市設計に通底する理念と手法の一端を解明することである。こうした研究の成果を踏まえた上で、モロッコにおけるアール・デコの建築の位置付けを試みる。

### 3. 研究の方法

本研究では実地調査とともに、パリ国立古文書館(Archives nationales de Paris)、エクス＝アン＝プロヴァンス国立海外古文書館(Archives nationales d'outre-mer à Aix-en-Provence)、モロッコ国立・王立図書館(Bibliothèque nationale du royaume du Maroc)、モロッコ国立・王立古文書館(Archives nationale du royaume du Maroc)、フランス建築協会21世紀建築資料センター(Centre d'archives d'architecture du XXe siècles à Paris)、ヴァンセンヌ国防省歴史資料部(Service historique de la défense à Vincennes)、トレ＝リヨテ館図書室(Bibliothèque, Château de Thorey-Lyautey)、ミュゼ・ソシアル図書館(Bibliothèque, Musée social)、パリ国立美術学校資料館(Archives, Ecole nationale supérieure des beaux-arts à Paris)、パリ建築専門学校図書館(Archives, Ecole spéciale d'architecture à Paris)ほかにおいて収集した史料に基づいて、次の5点の考察を行った。

(1) 全プロジェクトの解明：プロストおよび彼に同行したフランスの若手建築家による未公開史料を含む一次史料を精査し、

モロッコの歴史的都市における建築作品と都市計画の全容を把握する。

(2) フランス政府の方針とプロストの理念の把握：古文書館に保管された政治史料よりリヨテからプロストおよび各建築家に対する命令や指示からフランス政府の方針を解読するとともに、プロストの史料より彼の建築・都市に対する理念を明らかにする。

(3) 都市計画と建築作品の分析：フランスの政治的背景やプロストの理念を踏まえた上で、図面を用いて都市計画案と建築作品の分析を行い、政策面の反映や造形面の特徴を明らかにする。主な考察の対象は新市街とする。

(4) プロストの設計理念の解明：文献調査と作品分析から、建築設計と都市設計に通底する理念と手法を解明する。

(5) アル・デコの建築の位置付け：モロッコ5大都市の都市計画を踏まえた上で、プロストと彼に同行したフランスの若手建築家らによる建築作品に関する考察から、モロッコ近代建築におけるアル・デコの建築の位置付けを試みる。

#### 4. 研究成果

本研究の成果を大別すると、次の5点にまとめることができる。

(1) リヨテの下でプロストが都市計画を手がけた都市は、今日世界遺産に指定されている都市を含むカサブランカ、ラバト、フェズ、マラケシュ、メクネスであったと考えられてきた。しかしフランス建築協会 21 世紀建築資料センターの Fonds Henri Prost に保管されている図面集 *Plans directeurs des villes du Maroc* と、トレ=リヨテ館図書室に所蔵されている図面集 *Plan d'aménagement des villes du Maroc* を照合することによって、こうした都市が上記5都市に加えて、セッタ、ウエド=ゼム、マザガン(現アル・ジャディーダ)、サフィ、モガドール(現エッサウィラ)、ケニトラ、セフル、ウェザーヌ、タザ、タンジェの全15都市に及ぶことが明らかとなった。それらはマラケシュを除くと、いずれも大西洋に近い、北側に位置していることがわかる。

(2) リヨテは分離政策を執り、西欧人と原住民の居住地が分けられた。そのためモロッコにおける都市計画では、西洋人のための新市街と、原住民の居住地メディナという旧市街の位置関係が最も重要となる。まず、これら15都市ほぼすべてにおいて旧市街を残す計画であったことが明らかとなった。さらに新市街は旧市街と連続する形、もしくは間を空けてその周辺部に建設することが示されている。こうした違いは、各都市の地形や役割、規模などに応じて計画されたために生じたものであると考えられる。

(3) プロストが描いた都市計画においてメディナを保全するという方針は、リヨテの分離政策に基づいたものであると同時に、原住

民の居住地に考察の視点が向けられて明らかにされたことである。その一方、本国の官報に相当する保護領の公報 *Bulletin officiel, Protectorat de la République française au Maroc, Édition française* を参照しつつ、同国の遺産に焦点を当てると、こうした居住地のみならず、メディナや城壁の外側に建設された歴史的建造物や文化遺産などが、本国と同じような歴史的建造物制度の下で、調査・検証が実施されて、居住地外のものを含む多くに遺産が保護の対象として登録または候補に挙げられていたことが明らかとなった。

(4) チュニジアとアルジェリアを植民地にしたフランスは地中海と大西洋の両者に面したモロッコを保護領にして、アフリカ大陸の南方を目指して領土拡大を目指すためには、この足がかりとなるモロッコの安定した統治が不可欠であり、ヨーロッパ人のための平穏な都市建設が急務であった。カサブランカをはじめとした数多くの都市においてアル・デコの建築がまとめて次々に建設された背景には、プロストがフランスからラプラトやマラストのみならず、若手の建築家を呼び寄せて、各都市の建築設計を委ねたという背景がある。こうした現象はフランスの地方都市においてアル・デコの建築が普及した状況に類似しており、こうした特徴のある建築の波及現象を解明するために大変重要な事例であるといえる。

(5) モロッコにおける都市計画は、プロストの次に着任したフランスの建築家・都市計画家ミシェル・エコシャル(1905-1985)以降に実施されたプロストの方針とは異なる近代主義的な方針や手法に対する評価や批判が注目を集めて、プロストが最初に描いた都市計画の方針や手法は、これまで正確に論じられていない。本研究では、プロストが描いた都市計画の詳細な考察に基づいて、「4. 研究成果」の(1)から(4)に挙げた新たな評価を記すとともに、プロストが生涯を通して推進した歴史的街区の保全と新市街の建設の両立の最初の実践例としての位置付けを検討した。本研究の成果は、近代主義全盛の時代に、こうした都市計画を実践した先駆的な事例であり、今日非常に重要視されるようになった遺産の保全と、その周辺環境の整備に関わる理念や手法にとって大切な多くの参照点が見つかり、学術的な成果のみならず、実践的な成果という点も兼ね備えているものであるといえよう。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

三田村哲哉「ラバトにおける新市街の計画に関する考察 - モロッコにおけるアンリ・プロストの都市計画とアル・デコの建築 その2 - 」『日本建築学会大会講演梗概集 F-2 建築歴史・意匠』日本建築学会、査読無、印刷中、2014。

三田村哲哉「アンリ・プロストによるイスタンブールの都市計画に関する概説 - アンリ・プロストの設計手法に関する考察 その3」『日本建築学会近畿支部研究発表会研究報告』日本建築学会、印刷中、査読無、2014。

三田村哲哉「1874年の生誕からフランス都市計画家協会の設立まで - 建築家・都市計画家アンリ・プロストに関する考察 その1 - 」『日本建築学会東海支部研究発表会研究報告』日本建築学会、査読無、765-768、2014。

三田村哲哉「ラバトにおける新市街の計画に関する考察 - モロッコにおけるアンリ・プロストの都市計画とアール・デコの建築 その2 - 」『日本建築学会大会講演梗概集 F-2 建築歴史・意匠』日本建築学会、査読無、587-588、2013。

三田村哲哉「カサブランカにおけるアール・デコの建築に関する考察 - モロッコにおけるアンリ・プロストの都市計画とアール・デコの建築 その1 - 」『日本建築学会大会講演梗概集 F-2 建築歴史・意匠』日本建築学会、査読無、587-588、2012。

〔学会発表〕(計3件)

三田村哲哉「建築家・都市計画家アンリ・プロストによるモロッコ歴史的都市の近代化 - ラバトとカサブランカの比較考察 - 」地中海アーバニズム研究会、龍谷大学(京都府京都市)2013年11月12日。

三田村哲哉「建築家・都市計画家アンリ・プロストによるモロッコ歴史的都市のアーバン・デザイン」意匠学会、武庫川女子大学・甲子園会館(兵庫県西宮市)2013年2月16日。

三田村哲哉「建築家・都市計画家アンリ・プロスト - 保護領モロッコ上陸まで」日本建築学会、大阪科学技術センター(大阪府大阪市)2012年6月30日。

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：

番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等  
なし。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三田村 哲哉 (MITAMURA, Tetsuya)  
兵庫県立大学・環境人間学部・准教授  
研究者番号：26420646

(2) 研究分担者

なし ( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ( )

研究者番号：